

## 子どもたち一人一人の学力を高める研究

### －図画工作科における育てたい資質や能力を意識した指導と評価の工夫－

#### I 研究の内容

##### 1 主題設定の理由

本校では、これまで、図画工作科において、育てたい資質や能力を意識した指導を行ってきた。児童が自分なりの発想で試行錯誤を存分に行うことを保障することにより、そこには多種多様な表現で生き生きと活動する児童の姿が見られるようになってきた。そこで、育てたい資質や能力を意識した指導と評価について研究していくことにより、子どもたち一人一人の学力の向上に努めたいと考えた。

##### 2 研究仮説

図画工作科において、4つの観点を意識した指導と評価を行うことにより、子どもたちの学力は高まるであろう。

##### 3 研究の内容

4つの観点を意識した指導と評価を工夫する。

###### (1) 内容

###### ア 指導と評価の工夫

- 「4つの力」を意識した題材の理解と工夫／評価規準の作成及び指導と評価の計画についての工夫／場の設定や準備の工夫
- 「4つの力」によるめあての意識化の工夫／題材との出会わせ方の工夫／発達段階に合わせた学習カードの工夫（主として中・高学年）／教師の言葉掛けの工夫／支援を必要とする子どもへの手だての工夫／鑑賞の力を育てる場の工夫（ピピッとタイムの活用）
- 指導と評価の積み重ね（ふりかえりカードの活用）

###### イ その他

- 校内展示の工夫（ピピッとカード、ピピッとギャラリーの活用）／保護者との連携や地域素材の活用など

#### II 成果と課題

##### 1 「4つの力」を意識した指導と評価の工夫

- 材料や場、道具、授業の流れなどを児童の状況に合わせて工夫して設定することができた。児童らは意欲を持ち楽しみながら材料や用具に親しみ豊かな経験をしていく中で、その資質や能力を発揮することができた。「育てたい力」を明確にした上での、材料や道具、場の設定の有効性や絞り込みについての検討が今後の課題である。

- 評価規準の作成及び指導と評価の計画については、新学習指導要領を踏まえ共通事項を意識することで、指導や支援に効果的に活用することができた。4つの資質や能力は活動全体を通して表れるということを理解した上で、指導案のシンプル化や客観的な評価についての改善が課題である。特に評価については、ウエイトのかけ方やタイミングを考えていくことが必要である。
- 題材の目標をキーワード化して吹きだしを使い、「4つの力」と視覚的に結びつけ掲示したが、教員児童共にめあてが意識化され有効であった。
- 題材との出会わせ方や導入段階での活動を工夫したことにより、児童は意欲を持って発想豊かに活動を進めることができた。
- 見通しや手順を示しながら、ふりかえりやアイディアスケッチなどを取り入れた学習カードの工夫を試みた。見取りにも役立てることができた。
- 「4つの力」を意識した言葉掛け、特に共感的な言葉掛けにより、児童らは自信を持って表現活動に取り組むことができた。また、意図や思い、願いや悩みを聞く「対話」により、児童の思いを明確に引き出し、方向付けていくこともできた。
- 支援を必要とする児童への手だては、言葉掛けが最も有効であった。「問いかける（対話）」ことで、児童自らが解決に向かうことができた例も見られた。できる限り自身の力を引き出せるよう支援してきたが、全体を通して支援を必要とする児童がほとんど見られなかったことは、大きな成果といえる。
- 低学年では遊びながらの「ピピッとタイム」が、高学年では「一人ピピッとタイム」が効果的であった。他の作品や活動から学んだことを自分の表現に生かす姿が多く見られるようになり、学び合う態度やよさを認め合う心の育ちが感じられた。
- 前時の行動観察、発言、カードへの記述、作品、映像記録により、様々な視点から見取り、次時の指導に生かすことができた。多くの評価資料をどう読み取っていくのが、客観的な評価への今後の課題の一つとなる。

## 2 その他

- 校内展示の工夫として「ピピッとギャラリー」を職員室前の廊下に設置した。児童が楽しんで取り組む姿や、学年間の自然な交流も見られ、教員が児童の新たなよさに気付くこともできた。鑑賞の場として効果が期待できるが、継続には、準備・運営などの面での工夫が必要である。
- 鑑賞カード「ピピッとカード」は、各学級内で取り組んだ。また、授業参観に保護者にも書いてもらった。今後は、学年を超えて作品を見る活動等を活発化し、見ることへの意識を高めていくことも効果的であると思われる。
- 学習カードや作品、活動の様子の写真等を、学習の様子を伝える通信と一緒に家庭に持ち帰らせた。保護者にも学習の様子や作品への思いを伝えることにより、図画工作科の特性や育てたい力、子どもの作品や活動についての理解を深め、子どもたちの更なる意欲につなげていくことが期待できる。また、保護者からの感想や意見は、今後の指導や支援に生かしていきたいと考えている。

(研究主任 三枝 清美)